

令和4年度 小樽支部活動報告

研究主題

心豊かに学び、達成感を感じる体育活動の創造

1 研究の概要

全国体力・運動能力調査の結果から本道の子どもたちは体格で全国平均を上回っており、小樽市においては、全道平均をも上回っている。体力の面においては、小学校男子が全道・全国の平均値を上回り、中学校男子が全道の平均値を上回る結果になったが、小中学校いずれも女子は全国・全道の平均値を下回る結果になった。

学校体育においては、生涯体育・スポーツと「健やかな体」を育むことを目指し、児童・生徒が進んで運動に親しむ習慣や能力、意欲、態度を身に付け、生涯にわたり明るく生活を営むための基盤づくりを行う指導を充実させることが大切である。

そこで本研究会では、今年度より研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造」とし、本市の体力の現状及び学習指導要領の趣旨を踏まえ研究を進めることとした。

2 今年度の研究の取組

本年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造」に沿った公開授業を各部会にて実施することができた。

【研究の柱】

- ①主体的な姿へと導く単元計画・体育授業のあり方について
- ②対話的な姿へと導く単元計画・体育授業のあり方について
- ③深い学びへと導く単元計画・体育授業のあり方について

3 今年度の研究の実際（公開研究授業）

【小学校部会】

桂岡小学校体育館（山下教諭・渡邊教諭：第6学年「ポール運動：ゴール型 ゲーム（サッカー）」）にて開催することができた。

授業を通して、

- ①主体的な姿を引き出す工夫
 - ・「やってみたい！」と思えるルール設定や恐怖感を軽減する教具（ポール）の工夫
 - ・運動量を確保する場の設定
- ②対話的な姿を引き出す工夫
 - ・共有すべきことを明確にした教師のコーディネート
 - ・思考を可視化するためにICT機器の活用（ホワイトボード・映像）
- ③深い学びへと導く工夫

・ICT機器の活用による視覚化して共有する振り返りの場の設定などの点について、会員間で共有することができ、今後の授業づくりに生かしていくと考える。

【中学校部会】

向陽中学校（中谷教諭）：第3学年「球技 バレーボール」にて開催することができた。成果として、

①生徒の自己評価の取り組み

・技能習得のために、「現状の課題を把握できる・次の時間で具体的にどのように改善をしていけばいいのか」かが分かるワークシートの作成。

②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造

・生徒が運動の意味を理解しやすい教材の工夫。
・多角的・段階的な練習方法や個々の特性に合わせた指導法の改善
・ICT機器を活用したディスカッション（思考の可視化・共有）
・生徒へのフィードバックを重視した自己評価、相互評価など評価方法の工夫と指導法の改善

③生徒が安心できる保健体育の授業

『段階的な技術指導・挑戦する場を数多く設定することはもちろん、生徒同士が互いに「挑戦すること」に対して、認め合う関係性を構築する。』

などの点で中学校の体育の授業をつくっていく中で、大切なポイントを先生方で共有することができた。

4 研究の成果と今後の課題

上記のように公開授業の際にICT機器を活用したことにより、様々な場面での活用方法についての理解が広がってきてている。これまでのように「どう使うか」を考えることから、教師または児童生徒が目標の到達に向けて、活用の仕方を選択するような展開となる授業を共有することができた。

5 次年度への展望

今後の社会的動向を注視しながら、今年度同様研究授業を軸とした研究活動ができるよう計画について検討している。

特に、これまでに研修を深めづらい状況のなか、日々の課題解決に困り感を持っている若手教員の研修の場と、地域内でのネットワークづくりの場として積極的に研修に参加できる環境を担保できるよう計画を進める。

また、ICT機器の積極的な活用へ向けた情報や実践報告などを提供し、学校体育での一層の普及と発展へ向けていきたい。